

———なお、陳情の文章のみを形式を変え、一枚に縮めてUPしてあります。ご了承ください。———

拝啓 陽春の候、中谷先生におかれましては益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

中谷先生が防衛大臣としてご活躍のご様子は、各種メディアやインターネットを通じていつも拝見しております。

さて、昨年は自衛官の住環境改善についての請願で、紹介議員をお引き受け下さいまして誠に有難うございました。

実は今回、元紹介議員であり防衛大臣にご就任された中谷元先生に、自衛隊官舎の実態調査を始め、待遇改善につなげる為の調査と具体的な改革を推し進めて頂きたい旨お願いしたく、筆をとった次第です。

私どもはあれからも引き続き請願の為の署名活動を行っておりますが、その活動の中で紹介議員の一人である小田原潔衆議院議員とお話をする機会がございました。

小田原先生のお父様は元陸幕の将官とのことですが、「うちの家はいつもぼろぼろだったから子供心に『うちは貧乏だ』と思い込んでいた。だからおもちゃ等あれこれ買ってほしいとはいいだせなかった。そんな私が自衛官を選ばず政治家という道を選んだのは、そういう両親の生活を見てきた上での自分なりの選択でもあった」という趣旨のお話をして下さいました。

国の為に命をかける自衛官達の待遇がこのままでいいとは思えません。

厳しい任務の後の時間は快適な家庭生活がおくれてこそ、その家と家族を守り、更にはこの郷土や国を何としても守ろうという想いが自然と強固になっていくものだと思います。

たとえば、武道などの国際セミナーなどに参加致しますと、合気道を嗜む外国の軍人とお会いすることがございます。

彼らはパーティに参加する際、沢山の勲章をつけた軍服でやってきます。

軍人や警察官の制服は誇らしいものだというのが世界のスタンダードであり、尊敬をあつめる彼らの宿舎はやはりそれなりに快適な場所であることは当たり前となっています。

ところが自衛隊については、その存在そのものに世論の反発や無理解があった『不遇の時代』がつい先日まで続いておりました。

しかし、最近の災害派遣での大活躍はもちろん、今まで歴代の隊員が地道に積み上げてきた地域住民との信頼関係がようやく認められつつあり、先日の世論調査ではその回答者の9割以上が自衛隊に対して好感をもっているという結果が出ております。

こういった事が大々的に報道されるという事はとても喜ばしいですし、大変良い機会でもあると考えております。

そこで政府にはそろそろこの問題を真正面から見据えて頂き、今後の国防と災害対策に不可欠である自衛官の人員増員とその確保、及びその為の根本的な待遇改善を真剣に考え、動いて頂きたいと切に願います。

ここで大切なことは自衛官の官舎の問題を「軍人として」ではなく「家庭人として」どうなのか、という視点を忘れずに現状の調査・分析をして頂くことです。

勿論私共も「一朝一夕ですぐに何かが変わる」等とは思っておりません。

ですが防衛大臣である中谷先生によってこの現状が少しでも改善されますよう、どうかお力添えを頂けないかとお縊りする次第でございます。

それではまた近日中にお会いできる機会もあるかと存じますが、まずは書中にてお願い申し上げます。

それでは中谷先生、及び関係者皆様様の、益々のご健勝を心よりお祈りいたしております。 敬具